

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村整備政策研究部会の新設について……………	72
○研究部会長の交代について……………	72
○平成 27 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) 締切 10 月 31 日……………	72
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……………	73
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! ……	73
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております! ……	73
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い……………	74
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ……………	75
○第 69 回中国四国支部講演会ならびに第 38 回地方講習会の開催について (第 3 報) ㊦ 11 月 5、6 日開催……………	75
○第 27 回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について ㊦ 講演申込締切 10 月 17 日……………	76
○平成 26 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について 締切 11 月 21 日……………	77
○農村研究フォーラム 2014 の開催について ㊦ 11 月 12 日開催……………	77
農業農村工学会論文集第 293 号内容紹介……………	79
学会記事……………	81

第 82 巻第 11 号予定

展望: 水利システム—世代をこえて引き継がれる地域の情報空間: 樽屋啓之

小特集: 先人たちが拓いた田畑, 施設, 水遣いの今—世代をこえて引き継がれる財産

- ①宮古島における農業用水開発の歴史と農業水利施設の継承: 花田潤也
- ②市街化が進行した香川県ため池灌漑水田地域における水管理: 谷口智之ほか
- ③京都市内の歴史的水利施設の保全と多面的機能の継承: 山本修三ほか
- ④川崎市街地を流れる二ヶ領用水の歴史と利活用について: 甲斐貴光
- ⑤泥炭地開発の中で生まれた鋼製開水路とその状態評価: 水間啓慈ほか

技術レポート

北海道支部: ドイツ・バイエルン州における「境界越え農法」: 鈴木 剛

東北支部: 県立自然公園内における環境に配慮した頭首工の施工事例: 福司健治ほか

関東支部: 完了を控えた両総地区の管内調査と今後の予防保全: 千原瑞穂

京都支部: 新川河口排水機場コンクリート構造物のモニタリング手法: 東野徹男ほか

中国四国支部: 松山南部地区におけるトンネルの施工事例: 沼田豊秋ほか

九州沖縄支部: 佐賀平野におけるクリーク法面対策の工法検討: 山口武彦ほか

小講座: 水循環基本法: 西原正彦

私のビジョン: 農村の水がある空間を「ええなあ」と思えるようにしたい: 廣瀬裕一

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年10月23日	関東支部	第65回支部大会講演会、講習会	—	前橋市	82巻6, 7号
平成26年10月24日	土壌物理研究部会	平成26年度研究会	現場技術のなかの土壌物理(仮)	仙台市	82巻7号
平成26年10月29日	北海道支部	第63回研究発表会	—	札幌市	82巻8号
平成26年10月29, 30日	九州沖縄支部	第95回講演会・シンポジウム・現地見学会	—	佐賀市	82巻6, 8号
平成26年10月30, 31日	東北支部	平成26年度総会・第57回研究発表会・第47回研修会・第37回地方講習会	—	仙台市	82巻6, 7, 8号
平成26年11月5, 6日	中国四国支部	第69回支部講演会・第38回地方講習会	—	鳥取市	82巻7, 8, 10号
平成26年11月6, 7日	農村道路研究部会	第24回研究集会・現地研修会	農道の長寿命化について	津市	82巻7, 9号
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会	—	岐阜市	82巻4, 6号
平成26年11月18, 19日	水文・水環境研究部会	第27回シンポジウム	—	府中市	82巻10号
平成26年11月26, 27日	農地保全研究部会	第35回研究集会・現地研修会	都市における農地の保全とその役割	藤沢市ほか	82巻7, 9号
平成26年12月3日	北海道支部	支部研修会・シンポジウム	—	札幌市	—
平成26年12月4, 5日	応用水理研究部会	平成26年度講演会	農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	つくば市	82巻9号
平成27年1月20日	北海道支部	支部講習会	—	札幌市	—

農業農村整備政策研究部会の新設について

このたび農業農村工学会第232回理事会の議を経て、下記の研究部会の設立が承認されましたのでお知らせいたします。

記

部会名 農業農村工学会農業農村整備政策研究部会
(平成26年6月30日設立)

部会長 石井 敦(筑波大学生命環境系教授)
事務局 農村振興局整備部設計課施工企画調整室内
E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

部会ホームページ

<http://www.jsidre.or.jp/bukai/seisaku/>

研究部会長の交代について

下記のとおり研究部会長が交代しました。

記

応用水理研究部会(平成26年6月1日付)

新部会長 樽屋啓之(農村工学研究所)

前部会長 藤原正幸

水文・水環境研究部会(平成26年9月1日付)

新部会長 加藤 亮(東京農工大学大学院農学研究院)

前部会長 高瀬恵次

平成27年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成27年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、本誌82巻6号58~59ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成26年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24CPDを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌10月号掲載の問題は11月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2CPDを、7~9問正解で1.5CPDを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要
学会誌 82, 83 巻の小特集のテーマ

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
82 巻	11 号 先人たちが拓いた田畑、施設、水遣いの今一世代をこえて引き継がれる財産（仮）	公募終了
	12 号 国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今（仮）	公募終了
83 巻	1 号 国際的な研究協力とその波及効果（仮）	公募終了
	2 号 農業農村工学分野における ICT 活用の現状と今後（仮）	公募終了
	3 号 河川における環境配慮の技術（仮）	10月15日
	4 号 次世代型農業水利システムの姿（仮）	11月17日
	5 号 国際土壌年関連（仮）	12月15日
	6 号 大会関連（仮）	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

83巻3号テーマ「河川における環境配慮の技術」(仮)

河川においては、「多自然川づくり」が進められてきたところですが、平成22年に出された「中小河川に関する河道計画の技術基準について」において、護岸や寄り洲の考え方が更新されました。それに伴い、バープ工など堆砂をコントロールする技術の研究が活発に行われています。一方、農業水路では、環境との調和に配慮した水路整備が進められてきているところです。河川概念や手法をただちに農業水路に取り入れることは難しくとも、基本的な考え方については、農業水路の構造・水理機能の維持と生態系の保全とを両立させる上で学ぶべきところが多いと考えます。

83巻4号テーマ「次世代型農業水利システムの姿」(仮)

農村の人口減少・高齢化の進展など農村社会が変化する中、担い手への農地集積や水田フル活用などの施策が展開されており、農業の構造改革が加速的に進展しつつあります。このため、水利システムについても、大規模経営・少数の担い手が大勢を占める水利用形態への適合や営農変化に伴う水需要変動への対応など、水管理の省力化・弾力化・効率化等に向けた検討が必要となっています。加えて、地球温暖化、渇水・集中豪雨の頻発など気候変動に対応した新たな水需要や排水管理への対応も求められています。

折しも2015年4月、韓国において第7回世界水フォーラム

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

元来、農業水利施設は、河川とつながって機能を発揮するため、取水や排水流末において河川構造物の設置とあわせて水制工、沈砂池や排砂技術を培ってきた歴史があります。最近、頭首工の更新などに際して、環境との調和に配慮した魚道整備も検討されてきています。

本小特集では、河川における環境配慮の技術と題して、堆砂制御や生物の生息環境を考慮した水理構造物の工夫、農業水利施設の維持などへの展開、伝統的な水制技術などの再評価、などに関する報文を広く募集します。

の開催が予定されており、持続可能な水資源の利用や管理など、世界的な水に係わる課題について議論されます。

そこで本号では、農村社会・農業構造の変容や気候変動等への対応をにらんだ次世代型農業水利システムの構築に向けた検討・取組み事例に関する小特集を企画します。具体的には、現状の水利システムにおける課題の分析、弾力的配水を可能とする施設配置・水管理手法の提案、既存の農業用水の有効活用や新たな水管理システムの導入に関する事例紹介などの報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年7月にVol.12, No.3が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルはIF=1.247と高い評価を得ております。

また、世界14カ国からEditor（23名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。
投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.
6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan
TEL：+81-92-642-2909 FAX：+81-92-642-2914
E-mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境シス

テム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ **Editor-in-Chief**：Dr. Masaru MIZOGUCHI（Japan）

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ **Editors** 14カ国から23名

・ **Editing Board** 26名

・ **Chief Management Editors**

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Jin Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

・ **Managing Editors**

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

第69回中国四国支部講演会ならびに第38回地方講習会の開催について（第3報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



第69回中国四国支部講演会ならびに第38回地方講習会のプログラムの詳細が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 支部講演会

(1) 日 時 平成26年11月5日（水）10：00～17：00

(2) 会 場 とりぎん文化会館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

TEL：0857-21-8700 FAX：0857-21-8705

<http://torikenmin.japro.jp/>

(3) 交通アクセス

・ JR 鳥取駅より

徒歩20分（若桜街道を県庁方向へ）

バス5分（鳥取バスターミナル（JR鳥取駅横）から湖山・鳥大・賀露線など「県庁日赤前」下車）

・ 鳥取空港より

- 車 15分 (空港連絡バス「県庁日赤前」, タクシー)
- (4) プログラム
- 受付開始 9:30~
- 開会式 10:00~10:15 (小ホール)
- 支部表彰式 10:15~10:25 (ク)
- 特別講演 10:40~12:00 (ク)
- 「農村地域の資源を活かした地域づくりについて (仮)」
- 鳥取環境大学副学長 小林慎太郎
- <昼食 12:00~13:00>
- 一般講演 13:00~17:00
- 第1会場 小ホール
- 第2会場 第1会議室
- 第3会場 第2会議室

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成26年11月5日(水) 18:00~20:00
- (2) 会場 ホテルモナーク鳥取
- 〒680-0834 鳥取市永楽温泉町403
- TEL: 0857-20-0101

3. 地方講習会

- (1) 日時 平成26年11月6日(木) 9:00~12:00
- (2) 会場 とりぎん文化会館 小ホール

(3) プログラム:

受付開始 8:30~

講習会 9:00~11:40

「土地改良事業計画基準「ほ場整備(水田)」の改訂について(仮)」

農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐

山浦清孝

「鳥取県下の農林・土木施設の長寿命化の取り組みについて(仮)」

(株) 荒谷建設コンサルタント技術部部长

川本篤志

「HPFRCCを表面遮水壁および下流法面保護層に用いるため池更新技術について(仮)」

鳥取大学農学部教授 緒方英彦

閉会式 11:45~12:00

4. 問合せ先

鳥取県農林水産部農地・水保全課 秋草・足立

〒680-8570 鳥取市東町1-220

TEL: 0857-26-7334・7336 FAX: 0857-26-8191

E-mail: nouchi-mizu@pref.tottori.jp

第27回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



水文・水環境研究部会では、第27回シンポジウムを開催します。講演申込み、参加申込みについては下記のとおりです。

1. 期日 平成26年11月18日(火), 19日(水)
2. 会場 東京農工大学府中キャンパス 50周年記念ホール
3. プログラム(予定)
 - 11月18日(火)
 - 9:30~10:00 受付
 - 10:00~17:30 研究会
 - 18:00~20:00 情報交換会
 - 11月19日(水)
 - 9:00~12:00 SWAT ワークショップ記念講演
4. 講演内容 とくに限定しません。
5. 講演時間 1課題30分程度(質疑応答も含む)
6. 参加費 研究会参加費 2,000円
情報交換会参加費 5,000円(予定)
7. 講演申込みおよび原稿提出
一般講演を募集します。手続きは以下のとおりとします。

(1) 講演申込み

①講演題目(仮題でも可), ②講演者名, ③講演要旨(200字程度), ④連絡先, ⑤とくに研究会で論議したい内容があれば自由記述(箇条書き可)等を記載の上, 10月17日(金)までにお申し込み下さい。

(2) 原稿締切

講演原稿は10ページ以内で, 部会誌「応用水文 No.27」に「論文(査読原稿)」または「部会報告(査読なし原稿)」として掲載され頒布されます。11月7日(金)までに, 講演題目, 講演者名, 連絡先(住所, TEL, FAX, E-mail), 原稿種別(査読付き, 査読なし)を記載の上, ご提出下さい。なお, 講演原稿の書式などについては部会ホームページをご覧ください。水文・水環境研究部会事務局へお問い合わせ下さい。

8. 研究会・情報交換会の参加申込み

氏名, 連絡先(住所, TEL, FAX, E-mail)および参加項目(研究会・情報交換会)を記載の上, 下記の水文・水環境研究部会事務局あてにFAX またはE-mailでお申し込み下さい。参加申込締切は11月7日(金)です。

9. 申込み・原稿送付およびお問合せ先

講演申込み・原稿送付および研究会・情報交換会参加申込み, その他シンポジウムに関するお問合せは, 下記の水文・水環境研究部会事務局までお願いします。また, 最新情報および詳細情報は部会ホームページ(<http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/hydenv/index.html>)に掲載されます。

水文・水環境研究部会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学府 加藤 亮 あて

TEL : 042-367-5757 (直通) FAX : 042-367-5757
E-mail : taskkato@cc.tuat.ac.jp

10. 宿泊申込み
宿泊の斡旋はいたしません。

平成 26 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について

材料施工研究部会では、平成 15 年 2 月発刊の図書「建設材料－地域環境の創造－」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる研究発表を表彰いたします。平成 26 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会ホームページ：http://www.ee.kochi-u.ac.jp/zai_seko/index.html をご参照下さい。

平成 26 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞 募集要領

1. 対象者

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。
- (2) 該当する研究の主体者でかつ発表者または第一著者であること。
- (3) 既受賞者は 3 年間選考対象から除く。

2. 対象研究発表

- (1) 平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月までに発行された農業農村工学会の論文集、学会誌、あるいは平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月までに開催された同学会大会講演会、同学会研究部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表された研究であること。
- (2) 発表された研究は、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる内容であること。
- (3) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学部門などを指す。

3. 応募資料

- (1) 推薦書 (A4 用紙 1 枚程度。ただし、書式は任意)
候補者の①氏名、②所属機関名、③役職、④生年月日、⑤会員番号、⑥連絡先 (住所、TEL、FAX、E-mail) および⑦候補となる研究発表の概要 (著者、題目、発表誌名、巻・号・頁、発表年月)、⑧推薦理由、を A4 用紙 1 枚程度で明記したもの。他薦の場合は、推薦者に関する①～⑥も併せて明記すること。
- (2) 候補となる主たる研究発表 1 件の別刷り
※ (1)、(2)いずれも PDF を下記部会長あてに送信すること。

4. 応募締切

平成 26 年 11 月 21 日 (金)

5. 応募先・問合せ先

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
岡山大学大学院環境生命科学研究科内
材料施工研究部会 部会長 西村伸一
TEL : 086-251-8162
E-mail : thegl786@cc.okayama-u.ac.jp

6. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、幹事会により決定する。審査結果は、別途受賞者に通知する。

7. 表彰

奨励賞に選定された研究発表は、平成 27 年 1 月に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

農村研究フォーラム 2014 の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業・農村は、食料の供給のみならず、国土の保全、生物多様性の保全、文化の継承などさまざまな多面的な機能を有しており国民全体がその効果を楽しんでいます。しかし、農業人口の減少や高齢化などを背景に、中山間地域では耕作放棄地の増加や水利施設の管理機能が低下し、これまで発揮してきた多面的機能の低下が懸念されています。このため、農村の地域資源を有効に活用し、農業生産の維持・向上を図るとともに、地域コミュニティの強化、都市・農村交流などによって農村地域の活力を回復することが重要となっています。

中山間地域の多面的機能を維持し適切に発揮させるためには、生物多様性、地域振興、基盤整備、鳥獣害対策研究など多様な分野による総合的な研究と連携が重要です。本フォーラムでは、現地で鋭意取り組まれている地域のリーダーによる報告

と専門家による講演および質疑を通じて、中山間地域の振興における今後の中長期的な技術開発の方向を明らかにします。

1. テーマ 中山間地域の振興のための技術開発
2. 日時 平成 26 年 11 月 12 日 (水) 13:00～17:15
3. 場所 秋葉原コンベンションホール
東京都千代田区外神田 1-18-13
4. 主催 (独) 農研機構農村工学研究所
共催：(独) 農業環境技術研究所
後援：農林水産省、農業農村工学会ほか (予定)
5. 参加費 無料
6. プログラム
基調講演
「中山間地域の持続性と農業政策 (仮)」

明治大学農学部教授 市田知子

「中山間地農業のための統合基盤整備技術」

課題報告

農村工学研究所 奥島里美

(1) 現状報告

「中山間地域の鳥獣害の特性と被害対策技術」

「那須野ヶ原地区の課題・取り組み」

中央農研センター 吉田保志子

那須野ヶ原土地改良区 星野恵美子

パネルディスカッション

「地域とのつながり～帰りたい場所づくり～」

「中山間地域振興に必要な総合研究と連携方策とは何か」

三重県多気町勢和地域資源保全・活用協議会 森本有紀

コーディネーター：中村ゆり（農研機構）

(2) 研究報告

「農業における生物多様性の役割－機能解明と活用」

7. 申込み・問合せ

農業環境技術研究所 西田智子

農村工学研究所 企画管理部業務推進室運営チーム 高橋

「地域資源を活かす中山間地域の振興」

〒305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6

農村工学研究所 遠藤和子

TEL：029-838-7678 FAX：029-838-7609

E-mail：nkk-unei@ml.affrc.go.jp

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

農業農村工学会発行

目次

第1章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第2章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベルII信頼性設計法
- 2.4 レベルI信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第3章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 セン断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第4章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第5章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第6章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第7章 施工および補修・補強

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価 4,528円(税込・送料学会負担)
 会員特価 2,675円(税込・送料学会負担)
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋 5-34-4
 公益社団法人 農業農村工学会
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494